

議会
本会議

3月9日

質問 大規模な住宅開発に
十分な交通安全対策を

豊橋市曙町のユニチカ
跡地に広大な住宅整備が
計画されています。

しもおく議員は、「交通
対策が喫緊の深刻な課題。
渋滞と事故の多発地帯への
対応。地域住民の不安の
把握と対処。緊急の交差点
改良や信号改良、横断歩
道改良など最大限の対応。
豊橋市南栄地区の今後の
取り組みはどうするか」と
県警本部に質しました。



豊橋市有地27haを市は、
無償でユニチカに譲渡。ユニ
チカは積水ハウスに63億円
で売却した。

名古屋地裁は住民の損害
賠償請求訴訟で、市に対しユ
ニチカへの同額の請求を命じ
た。市は、上告している。

答弁 開発の交通変化を詳細に予測
道路関係者らと情報共有・連携

警察本部長は、「大規模開発に伴う交通安全
について、周辺道路の交通量や交通流の変化
が想定され、詳細な予測を行うよう、さらに道路
管理者と開発事業者に必要な対策を先行的に
行うよう申し入れをしている。地域の交通実態
や地域の方々の要望の把握に努める。安全施設
は、道路管理者の拡幅や右折車線設置、警察の
信号器の調整、横断歩道設置など、様々な対策
を講じることにより、交通の安全と円滑の確保
を図っていく」と答えました。

要望 「県内では高齢者の事故死者117人のうち、半分の60人は歩行中、うち横断歩道中
が49人。愛知は車最優先となっている。歩行者の安全確保が急務」と指摘し、決意を求
めました。

しもおく議員の議案質疑

2月議会は、「予算議会」と言われます。特別会計を含め、3兆円近い
規模の2018年度当初予算が提案されているからです。そのため、「議案
質疑」の本会議が3日間開かれ、述べ65人が自席から質問しました。

質問 教員の長時間労働は深刻
国・県で抜本的に増員を



自席から質問する
しもおく議員

教員の長時間・多忙労
働が深刻です。下奥議員
は、岡崎商業高校の先生
が校内で倒れて亡くなり、
地裁が公務災害、過労死
を認めた例を紹介しなが
ら「教員の抜本的な定数
増が必要、国に求めよ。ま
た、県独自で増員を」と県
の決断を求めました。

答弁 多忙化解消は全国的な課題
県独自の増員はせず、国に要請

教育長は、国の来年度予算で、複雑化・困難化
する教育課題の対応に、小中学校で1595人の
定数改善があり、本県では小学校英語の専科教
員、日本語教育適応学級担当教員、児童生徒支
援担当教員など、88人の定数改善を紹介しつ
つ、「多忙化解消の
ための教員の充実は、
全国的課題。県独自
の定数措置ではなく、
国の定数改善が不可
欠。強く要望していく」と
冷たい姿勢の答弁
でした。

「自然減」以上に定数減らす文科省

国の来年度予算は、「少子
化による子供の減少に応じ教
員の定数を減らす「自然減」
以上に定数を減らしている。

教職員定数の「自然減」は、
3000人としていましたが、
予算案では学校統廃合による
教員減を含め4456人の削
減を計上している。

「豊田市では91%の先生が「忙しい」と答え、
愛教組の資料では82%の先生が「子どもと触
れ合う時間がない」と言っています」と教育
現場の実態を示しながら強く再考を求めました。